

第 2 期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略
令和 4 年度実績報告書

館 林 市

第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略 令和4年度実績報告書

1 目的

第2期館林市まち・ひと・しごと創生総合戦略において設定した成果指標及びKPIの令和4年度の実績を把握するとともに、成果、課題及び方向性を整理することにより、総合戦略の推進に役立てるもの

2 結果 (別紙1・別紙2参照)

令和4年度指標達成率(進捗率A・B(80%以上)となった指標の割合)

47.1% (昨年度比4.5ポイント減)

【内訳】

基本目標	全指標数	令和4年度							【参考】 令和3年度
		対象 指標数	A	B	C	D	—	指標 進捗率 (A・B)	指標 進捗率 (A・B)
1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする	12	9	2	1	1	5	3	33.3%	50.0%
2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	10	10	8	0	0	2	0	80.0%	80.0%
3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	7	7	1	0	0	6	0	14.3%	20.0%
4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	8	8	3	1	1	3	0	50.0%	37.5%
計	37	34	14	2	2	16	3	47.1%	51.6%

※ 調査の対象年度でないものは—(ハイフン)

3 実績に対する分析

(1) 指標について

- 各指標は、令和元年度時点の数値(現状値)及び令和7年度時点の数値(目標値)を設定し、原則毎年度報告される実績値により、総合戦略が着実に実施されているか進捗状況を測定する。
- なお、毎年度の評価については、現状値と目標値から案分した年次目標値を設定し、年次目標値に対する実績値を評価する。

※ 指標の性格上、特定の年度にのみ目標値を設定しているものや、規則的な案分値でないもの(別途年度目標値が存在する場合等)も存在する。

(2) 評価方法

第2期総合戦略における全37指標中、出典元となる統計調査等の集計年度でない3指標を除く、計34指標について以下のとおり評価を実施

評価に当たっては、まず次のいずれかの計算式により各指標の進捗率を算出

$$\left(\begin{array}{l} \text{ア (実績値-現状値) / (年次目標値-現状値)} \\ \text{イ 実績値/年次目標値 ※指標が計画期間5か年の累計値の場合} \end{array} \right)$$

上記の計算式によって得られた進捗率について、次のように4段階の評価を実施

100%以上の進捗率	A
80%以上～100%未満の進捗率	B
50%以上～80%未満の進捗率	C
50%未満の進捗率	D

このうち、A・B判定については、現状値から順調に推移した「達成」指標とし、基本目標ごとに「達成」指標の個数を数え、指標進捗率を算出

(3) 全体分析

- ・ 全体の指標進捗率としては47.1%となっており、昨年度の51.6%から4.5ポイントの減となっている。
- ・ 進捗率が減となった主な理由としては、「基本目標1（豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする）」及び「基本目標3（結婚・出産・子育ての希望をかなえる）」において、進捗率の低下が見られた指標があることなどが挙げられるため、経済分野や子育て分野などにおける取組のさらなる推進が求められる。
- ・ 一方、「基本目標4（人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる）」においては、進捗率の向上が見られるなど、一定程度、取組の成果も表れていることが伺えるため、今後も各種施策に着実に取り組んでいく必要がある。

(4) 個別分析

ア 「基本目標1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする」
指標進捗率33.3%（昨年度50.0% 16.7ポイント減）

- ・ 目標全体の進捗率としては33.3%となっており、昨年度から16.7ポイント減少している。

- ・ 主な理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響による社会情勢への不安も原因と考えられる「就職率」の低下や、農業従事者の減少などに伴う「農用地利用集積面積」の減少等によるものであるが、目標全体としての進捗率が低い状況であり、経済分野におけるさらなる取組の推進が求められる。

イ 「基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる」

指標進捗率80.0% (昨年度80.0% 増減なし)

- ・ 目標全体の進捗率としては80.0%となっており、昨年度からの増減はなかったものの、比較的高い水準で推移しているところであり、市内外への情報発信や移住定住促進等の取組について、今後も継続的に実施していくことが望ましい。
- ・ この中で、新型コロナウイルス感染症の影響を多大に受けた「観光入込客数」については、コロナ禍前ほどには戻っていないものの、回復傾向にあることから、観光入込客数のさらなる増加のため、引き続き各種イベントの企画・開催など、観光施策を積極的に推進していく必要がある。

ウ 「基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる」

指標進捗率14.3% (昨年度20.0% 5.7ポイント減)

- ・ 目標全体の進捗率としては14.3%となっており、昨年度から5.7ポイント減少している。
- ・ 主な理由としては、全国的な課題であるが、「婚姻数」や「合計特殊出生率」の低下、また、新型コロナウイルス感染症の影響により婚活イベントの回数が少なくなっていること等があげられるが、目標全体としての進捗率が低い状況であり、子育て支援等、人口減少対策に係る本市の取組のさらなる推進が求められる。
- ・ このような中、「子育て支援モバイルサービス登録率」については大幅な増加となっているなど、昨今、電子媒体を活用したサービスのニーズが高まっていることから、既存の施策の手続きの電子化など、より登録・活用しやすい内容としていくことが必要である。

エ 「基本目標4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる」

指標進捗率50.0% (昨年度37.5% 12.5ポイント増)

- ・ 目標全体の進捗率としては50.0%となっており、昨年度から12.5ポイント増加している。
- ・ 主な理由としては、「歴史文化施設における市民1人当たりの年間利用回数」及び「ふるさと納税寄附金額」について増加が見られ、本市のPR施策等について、一定の成果が表れていることが伺える。

- ・ 一方、新型コロナウイルス感染症の影響もあったため、画一的な取扱いは難しいものの、進捗率が低かった「路線バスの年間利用者数」や、「自主防災組織の組織率」の向上のため、暮らしやすい交通ネットワークの構築や、地区防災計画策定支援等の取組を進めていく必要がある。

4 今後の対応

本委員会において、総合戦略の進捗状況を検証したうえで、結果について担当部署へフィードバックし、事務事業の改善に努めていく。

第2期総合戦略 令和4年度重要業績評価指標(KPI)実績一覧

別紙1

基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標(KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和4年度)	コロナ	目標値 (令和4年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標1 豊かな地域をつくることに、安心して働けるようにする	1	従業員1人当たりの付加価値額	工業統計調査	万円	1,198 (H30年度)	1,230	-		-	-	-			-	-	商工課
		就職率	館林市統計書	%	7.6	9.0	4.7 (R3年度)		8.3	0%	D			-	-	商工課
【基本的方向1】「産業分野」	1-1	新規産業団地などの造成	産業政策課	ha	-	56.2	-		-	-	-	13%	D	・環境アセスメントの進捗確認を行い、関係機関と協議を重ね、現状での最短スケジュールで事業を進めている。 ・個別地権者交渉による同意率の向上を図り、円滑な事業進捗のため、地権者会を設立した。	・継続して環境アセスメントの進捗確認を行う。 ・地権者会と協力して同意率100%を目指していく。	産業政策課
	1-2	企業立地及び設備投資件数	工業統計調査・商工課	件	4	累計20	1		8	13%	D			遊休地となっていた民地及び一部市有地に食品製造企業が立地した。	・企業が立地するための用地の確保が課題であるとともに、本市への立地、又は既存工場の拡張を望む企業ニーズの把握が必要である。 ・新規団地造成の動向も踏まえ、各種支援策の検討を進める。	産業政策課 商工課
【基本的方向2】「商業」	1-3	既存商店店舗診断の件数	商工課	件	2	累計15	2		6	33%	D			中小企業診断士が申込店舗の経営状況の診断を行い、経営継続に向けた課題の洗い出し・アドバイスを行った。	申込店舗を増やし、市内店舗の経営継続に向けた支援を行う。	商工課
	1-4	遊休不動産の利活用件数	商工課	件	2	累計15	8		6	133%	A			遊休不動産を改装し店舗として活用ができ、空き店舗等の利活用を図った。	空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。	商工課
	1-5	小売業・卸売業の1店舗当たりの年間商品販売額	経済センサス	百万円	337 (H28年度)	340	-		-	-	-			-	-	商工課
【基本的方向3】「労働環境」	1-6	企業ガイダンス参加者数	商工課	人	507 (H30年度)	累計2,500	609	○	1,000	61%	C			西邑楽高校、関東学園大学附属高校、板倉高校で出張ガイダンスを開催。延べ22社が企業説明を行った。	・コロナ禍における授業時間の減少や教諭の働き方改革等の影響により、各高校でガイダンスに時間が割けなくなっている。 ・また、進学率の向上により、館林邑楽地域内の高校生の参加者確保が難しくなっている。 ・事業の在り方について検討を進める。	商工課
	1-7	Uターン支援奨励金の受給労働者数	商工課	人	46	累計200	71		80	89%	B			11社33名に奨励金を支給した。	・人口減少時代に突入する中で、人材確保自体が非常に難しくなっていることに加え、近隣に比べ低賃金であることから、域外への労働力の流出も懸念される。 ・待遇改善等による企業の魅力向上や自社の情報発信の必要性について、企業への働きかけを推進する。	商工課
【基本的方向4】「農業」	1-8	担い手の農地利用集積状況	農業振興課 農業委員会事務局	%	58.2	65	62.1		61.6	115%	A			担い手の農地利用集積状況は、年度目標を上回っており、農地中間管理事業の取り組み効果が出ている。	農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地や耕作放棄地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。	農業振興課 農業委員会事務局
	1-9	農業産出額	農林水産省	億円	59.5 (H30年度)	61	49.1	○	60.3	0%	D			農産物出荷額は大幅に減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響による消費低迷が要因と思われる。	農業従事者の高齢化や後継者不足や資材高騰など情勢が不安定なため、引き続き各種政策を通じて支援を行う。	農業振興課
	1-10	農用地利用集積面積	農業委員会事務局	ha	840	1,020	862		930	24%	D			農用地利用集積状況は、年度目標を下回っており、要因としては、農業従事者の高齢化や後継者不足、新規就農者の減少などにより農地集積・集約化が図れなかったことが考えられる。	農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。	農業委員会事務局

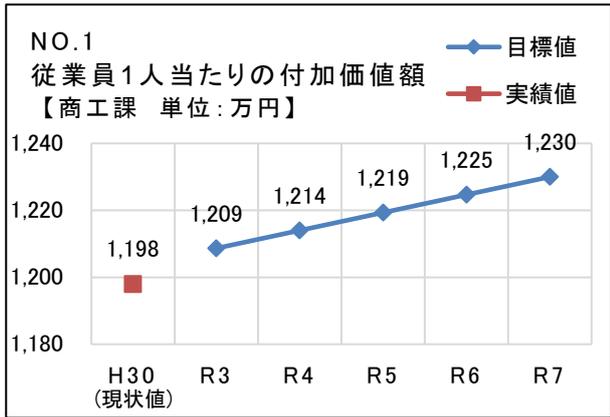
基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標(KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和4年度)	コロナ	目標値 (令和4年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標2 本市とのつながりを築き、新しい人の流れをつくる	2	社会増減数	群馬県移動人口調査	人	△ 48	△ 22	79		△ 35	977%	A	977%	A	-	-	企画課
【基本的方向1】「観光」	2-1	観光入込客数	つつじのまち観光課	人	1,489,539	1,650,000	1,127,479	○	1,567,729	0%	D	39%	D	新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントなどが中止となり、観光入込客数が減少した。	新型コロナウイルス感染症の収束を見込み、観光入込客につながる各種イベントを企画し、開催する。	つつじのまち観光課
	2-2	つつじまつり入園者数	つつじのまち観光課	人	129,242	140,000	90,111	○	78,000	116%	A			増加傾向にあるものの、新型コロナウイルスの影響により、入園者数の伸び率はやや低い。	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、入園料等による自主財源の確保及び地元経済の活性化に繋げる。	つつじのまち観光課
	2-3	観光ボランティアガイドの登録者数	つつじのまち観光課	人	65	80	55	○	72	0%	D			新型コロナウイルス感染症の影響により、観光スポットを案内する機会が減り、登録者数も減ってしまった。	観光客等からの要請により、観光ボランティアが活躍できるよう、ボランティアの会の育成・支援を行う。	つつじのまち観光課
【基本的方向2】「まちのにぎわい」	2-4	遊休不動産の利活用件数(再掲)	商工課	件	2	累計15	8		6	133%	A	157%	A	遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。	空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。	商工課
	2-5	移住定住の相談人数	企画課	人	27	累計150	80		60	133%	A			・約3年ぶりに対面での移住相談会が開催されるなど、コロナ禍前の状況に戻りつつある状況である。 ・このような中、令和4年度の移住相談人数は53名となり、本市への移住に繋がっている例もある。 【令和4年度内訳】 移住相談会での相談 11名 電話・メール等による相談 42名	・移住相談にあたっては、そもそも「館林市」を知らないかたも多く、本市の知名度を上げる必要がある。 ・また、対面での移住相談会について、自治体によっては簡単なプレゼントを渡すなどの様子が見られ、本市はさらに創意工夫の余地があると感じられた。 ・このようなことから、本市への移住・定住の促進のため、シティブロモーション等をさらに進めるとともに、移住相談会でのプースの工夫を行うなど、取組を強化していく。	企画課
	2-6	東京都でのPR活動回数	企画課	回	2	累計10	9		4	225%	A			・約3年ぶりに東京において対面での移住相談会が開催された。 【令和4年度】 2回	・対面でのイベント等は回数が増加し、機会を捉え参加を行ったものの、オンラインイベント等の参加が減ってしまったことから、今後については対面・オンライン問わず積極的にPRを行っていく。	企画課
	2-7	空き家バンク登録物件利活用件数	企画課	件	2	累計20	11		8	138%	A			令和4年度の利活用件数は5件であり、前年度実績と同水準を維持している。	利活用推進のためには、まずは空き家バンクの登録物件を増やす必要があることから、利活用の希望がある所有者に対してバンクへの登録を促すとともに、市内の不動産会社に働きかけるなどして、登録物件を増やしていく。	企画課
【基本的方向3】「情報の共有」	2-8	ホームページへのアクセス数	秘書課	件	2,509,601	4,015,361	5,364,361		3,262,481	379%	A	271%	A	・令和4年度のホームページへのアクセス数は、年度目標値(3,262,481件)を上回るとともに、令和7年度目標値にも達している。 ・要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、情報を求めるかたからのアクセスがここ数年で大きく増え、それが継続したものと考えられる。 ・なお、感染症の落ち着いたに伴い、更新する情報が少なくなってきたため、前年度比では719,342件(11.8%)の減となった。	時間に制約されることなく閲覧することができるホームページは、市民など利用者にとって利便性の向上に寄与する情報提供手段であることから、分かりやすいページ作りのほか、早く、正確な情報の提供に努めていく。	秘書課
	2-9	SNSのフォロワー数	秘書課	人	1,520	4,520	3,947		3,020	162%	A			・令和4年度のSNS(ツイッター)のフォロワー数は、年度目標値(3,020人)を上回った。 ・要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響などで、新しい情報をいち早く受け取りたいかたからの登録が進み、令和2年度に1,524人増、令和3年度に677人増と大幅に増えたためである。 ・なお、令和4年度には226人の増となったが、これまでと比べると伸びが鈍化している。	・フォロワー数を増やすためには、有益な情報をタイムリーに発信していく必要がある。 ・ツイッターには文字数制限があるため、市ホームページなどの媒体と連動させながら運用していく。	秘書課

基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標(KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和4年度)	コロナ	目標値 (令和4年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分業別 平均 進捗率	分業別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる	3	合計特殊出生率	群馬県人口動態調査	—	1.19	1.6	1.10 (R3年度)		1.40	0%	D			-	-	企画課
		婚姻数	群馬県人口動態調査	件	315	360	238 (R3年度)		338	0%	D			-	-	企画課
【基本的方向1】「まちのにぎわい」	3-1	市の支援による婚活イベント参加者数	企画課 市民協働課	人	65	累計445	62	○	178	35%	D	30%	D	市が支援した3回のイベントにおいて、62名の参加があった。 ・今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。 ・また、社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。 ・さらに「婚活支援事業補助金」についても積極的に周知し、民間によるイベント開催の増進を図る。	企画課 市民協働課	
	3-2	市の支援による婚活事業でのカップル成立数	企画課 市民協働課	組	5	累計50	5	○	20	25%	D			市が支援したイベントにおいて、5組のマッチングが成立した。 ※市が支援したイベント回数:3回 ・今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。 ・また、委託先である館林市社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。	企画課 市民協働課	
【基本的方向2】「子育て」	3-3	ファミリー・サポート・センターの延べ登録者数	子育て支援課	人	345	645	416	○	495	47%	D	325%	A	新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、「おねがい会員(育児の援助を受けたい方)」の会員数が増加し、地域における子育て支援の活性化に繋がった。 「まかせて会員(育児の援助を行いたい方)」の会員数が思うように伸びない状況であり、子育て支援に興味をもつ地域の人々の参加を促すため、事業をさらに周知していく。	子育て支援課	
	3-4	病児・病後児保育事業の登録者数	こども課	人	227	403	166	○	315	0%	D			引き続き、保育施設入園児等に事業の周知を働きかけ利用登録を促進し、病児・病後児保育を必要とする保護者の子育て支援を図る。	こども課	
	3-5	子育て支援モバイルサービス登録率	健康推進課	%	61.8	67.8	89.6		65	927%	A			新型コロナウイルス感染症の警戒度が下がり、面接時間を十分確保でき、モバイルサービスの説明を実施できたこと、アプリとしてリニューアルし、登録しやすくなったことで登録率が上昇した。 ・今後も、妊娠届出時、妊産婦・新生児訪問時に登録勧奨を行うことに加え、登録作業が難しい外国籍の方には職員が登録補助を行うことで、登録者数の増加に結び付けたい。 ・さらに対象者が登録したくなるよう配信内容の定期的な見直しや更新を行い登録率の維持・向上を目指す。	健康推進課	

基本目標／基本的方向	NO.	成果指標・重要業績評価指標(KPI)	出典・根拠	単位	現状値 (令和元年度)	目標値 (令和7年度)	実績値 (令和4年度)	コロナ	目標値 (令和4年度)	進捗率 (%)	進捗状況 (A~D)	分野別 平均 進捗率	分野別 進捗状況 (A~D)	成果	課題・方向性	回答課
基本目標4 人が集う、安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる	4	住みよさランキング	都市データバック (東洋経済)	位	287	200位以内	271		244	37%	D	37%	D	-	-	企画課
【基本的方向1】「防災」	4-1	自主防災組織の組織率	安全安心課	%	92.4	100	93.9		96	39%	D	39%	D	自主防災組織が未設立の行政区に対し、図上訓練の実施支援を行い、自主防災組織の設立を支援した。	各地区において自主的な防災活動が行われるよう、地区防災計画策定の支援を行うことなどにより、行政区による自主防災組織設置の動機づけをし、設置率の向上に努めていく。	安全安心課
【基本的方向2】「道路・交通」	4-2	交通事故発生件数	館林警察署	件	283	280	277		281	300%	A	150%	A	交通事故防止のため、関係機関と連携し啓発活動を実施するとともに、地域要望等に基づき、交通安全施設の整備・維持に努めた。	今後も引き続き関係機関と連携し啓発し啓発活動を実施するとともに、交通安全施設整備の推進を図る。	安全安心課
	4-3	路線バスの年間利用者数	安全安心課	人	248,074	300,000	231,700	○	268,844	0%	D			・館林都市圏地域公共交通計画に基づく路線再編の成果として、「館林・邑楽・千代田線」を廃止し、「六郷西線」「通勤通学ノースライナー」の運行を開始した。 ・利用促進事業としては、沿線高校への啓発チラシ配布をはじめ、乗り方教室の実施や、館林駅東西連絡通路内にデジタルサイネージの設置などを行った。 ・ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少していたが、令和4年度はコロナ前の9割以上に回復している。	館林都市圏地域公共交通計画に基づく各種事業を推進することにより、暮らしに寄り添う交通ネットワークの構築に取り組み、利用者数の増加を目指す。	安全安心課
【基本的方向3】「文化」	4-4	芸術文化施設における市民1人当たりの年間利用回数	文化振興課	回	2.5	2.5	1.55		2.5	62%	C	85%	B	文化会館及び芸術ホールでは、イベント開催の復調傾向や市内民間コンベンションホールの閉鎖などからホールや会議室利用者数が増加した。	芸術文化活動を推進するよう、老朽化した施設の維持管理が課題であり、安全安心な施設の利用のため、施設の長寿命化を図っていく。	文化振興課
	4-5	歴史文化施設における市民1人当たりの年間利用回数	文化振興課	回	0.3	0.3	0.324		0.3	108%	A			館林市立資料館(第一・第二)、田山花袋記念文学館では燻蒸による休館、武鷹館では工事休館があったが、ソフト事業の充実により、全施設で前年比でプラスに転じた。	歴史文化施設を拠点として、本市の歴史文化資源を広くPRし、市民だけでなく市外からの来訪者数を増加させて地域活性化を図っていく。	文化振興課
【基本的方向4】「スポーツ」	4-6	スポーツ実施率 (週1回以上)	スポーツ振興課	%	31.3	50	60.4		40.7	311%	A	311%	A	・スポーツ実施率は、スポーツ事業参加者及び公民館利用者へのアンケートにより算出しており、過年度の実施率を含め健康志向の関心の高さや各種スポーツ事業への参加意識の向上が見られる。 ・また、老朽化が進む各スポーツ施設の継続的な維持管理の実施によって、利用者の安全性を重視した環境整備が図られている。	・市民の体力の保持増進や健康志向の高まり、また地域づくりやコミュニケーション形成など、それぞれの目的に応じ取り組んでおり、目標値に達した。 ・今後は、市民ニーズを取り入れた各種スポーツ体験教室、家族や団体で気軽に楽しめるレクリエーション大会等を実施するほか、利便性を考慮した各スポーツ施設の改修等により、よりスポーツに取り組みやすい環境を整備し、実施率を向上させていく必要がある。	スポーツ振興課
【基本的方向5】「行政活動」	4-7	ふるさと納税寄附金額	企画課	円	100,494,000	累計500,000,000	171,956,800		200,000,000	86%	B	86%	B	さとふる、楽天といった大手ポータルサイトの追加により、寄附額・寄附件数ともに大幅増とすることができた。	さらなるポータルサイトの追加、新たな返礼品の発掘を進めていく。	企画課

※出典元の集計結果公表の時期により現時点で把握できない数値は、把握できる最新年・年度の値を記入

基本目標1 豊かな地域をつくとともに、安心して働けるようにする

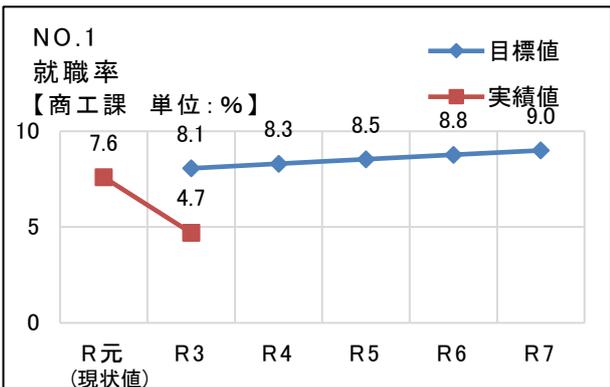


成果

※令和4年度実績値が公表されていないため、データなし

課題・方向性

-



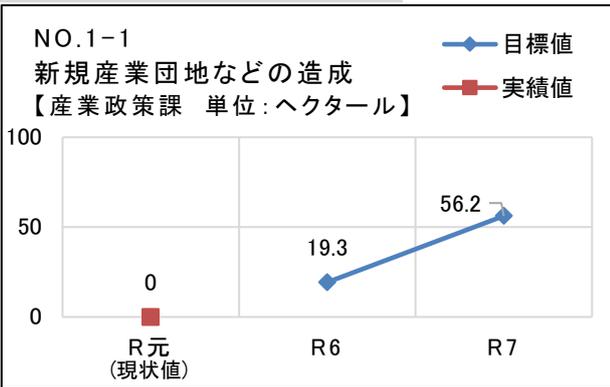
成果

-

課題・方向性

-

分野：産業

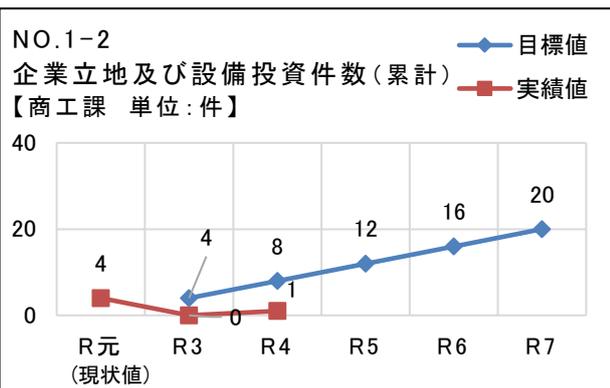


成果

- ・環境アセスメントの進捗確認を行い、関係機関と協議を重ね、現状での最短スケジュールで事業を進めている。
- ・個別地権者交渉による同意率の向上を図り、円滑な事業進捗のため、地権者会を設立した。

課題・方向性

- ・継続して環境アセスメントの進捗確認を行う。
- ・地権者会と協力して同意率100%を目指していく。



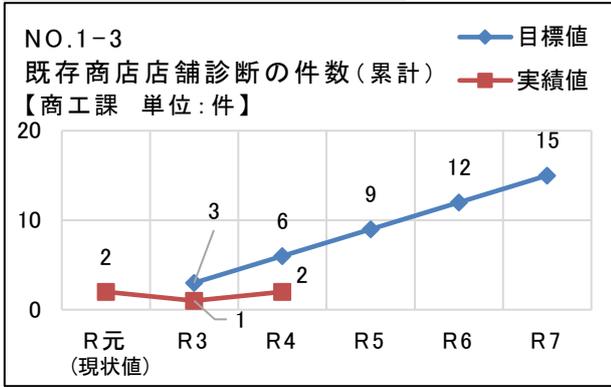
成果

遊休地となっていた民地及び一部市有地に食品製造企業が立地した。

課題・方向性

- ・企業が立地するための用地の確保が課題であるとともに、本市への立地、又は既存工場の拡張を望む企業ニーズの把握が必要である。
- ・新規団地造成の動向も踏まえ、各種支援策の検討を進める。

分野：商業

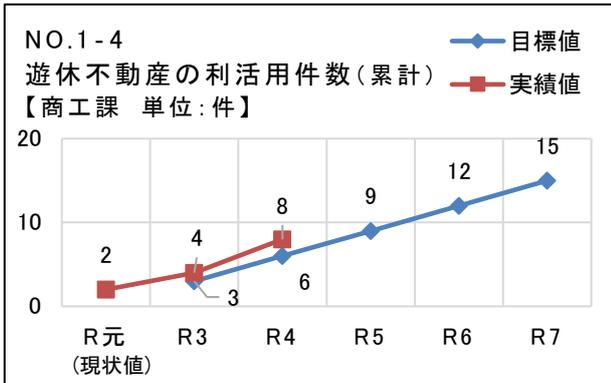


成果

中小企業診断士が申込店舗の経営状況の診断を行い、経営継続に向けた課題の洗い出し・アドバイスを行った。

課題・方向性

申込店舗を増やし、市内店舗の経営継続に向けた支援を行う。

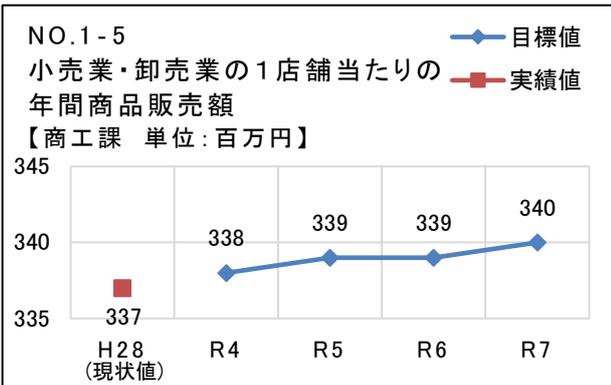


成果

遊休不動産を改装し店舗として活用ができ、空き店舗等の利活用を図った。

課題・方向性

空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。



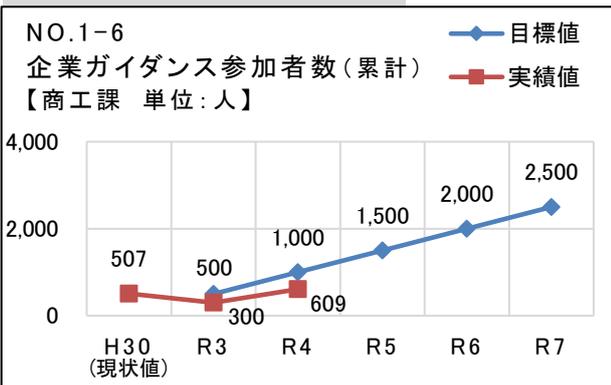
成果

※令和4年度実績値が公表されていないため、データなし

課題・方向性

-

分野：労働環境

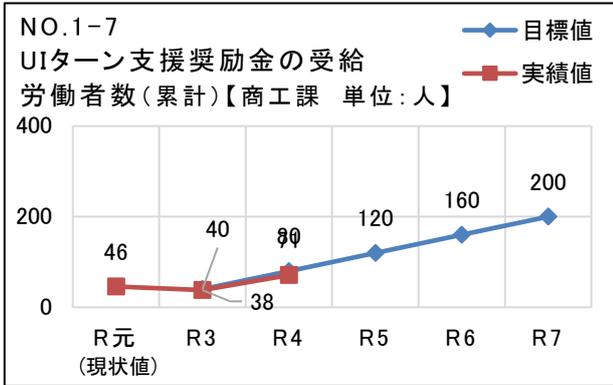


成果

西邑楽高校、関東学園大学附属高校、板倉高校で出張ガイダンスを開催。延べ22社が企業説明を行った。

課題・方向性

- ・コロナ禍における授業時間の減少や教諭の働き方改革等の影響により、各高校でガイダンスに時間が割けなくなっている。
- ・また、進学率の向上により、館林邑楽地域内の高校生の参加者確保が難しくなっている。
- ・事業の在り方について検討を進める。



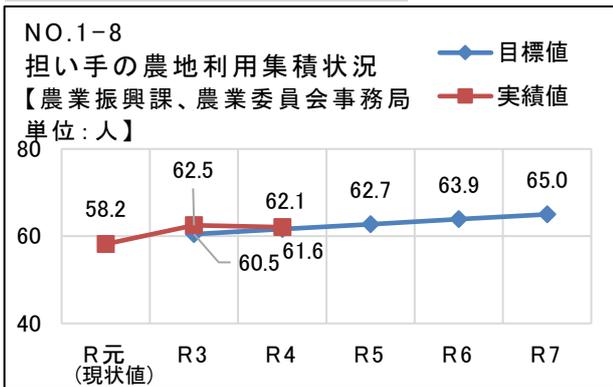
成果

11社33名に奨励金を支給した。

課題・方向性

- ・人口減少時代に突入する中で、人材確保自体が非常に難しくなっていることに加え、近隣に比べ低賃金であることから、域外への労働力の流出も懸念される。
- ・待遇改善等による企業の魅力向上や自社の情報発信の必要性について、企業への働きかけを推進する。

分野：農業

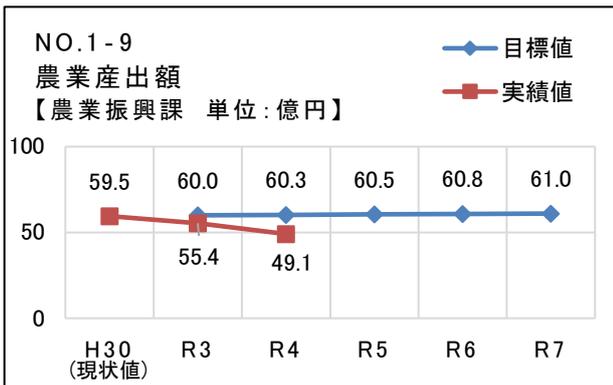


成果

担い手の農地利用集積状況は、年度目標を上回っており、農地中間管理事業の取り組み効果が出ている。

課題・方向性

農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地や耕作放棄地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。

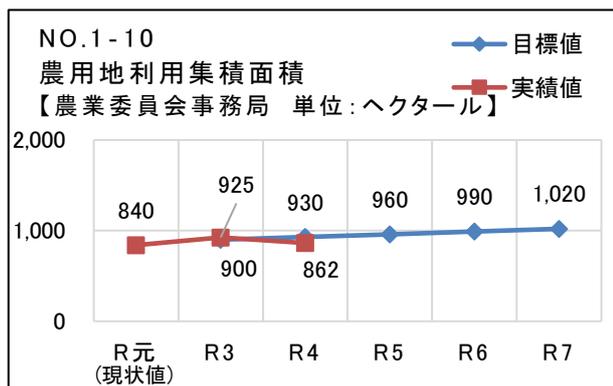


成果

農産物出荷額は大幅に減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響による消費低迷が要因と思われる。

課題・方向性

農業従事者の高齢化や後継者不足や資材高騰など情勢が不安定なため、引き続き各種政策を通じて支援を行う。

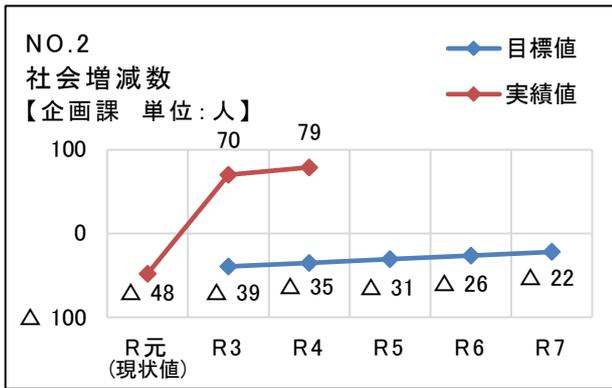


成果

農用地利用集積状況は、年度目標を下回っており、要因としては、農業従事者の高齢化や後継者不足、新規就農者の減少などにより農地集積・集約化が図れなかったことが考えられる。

課題・方向性

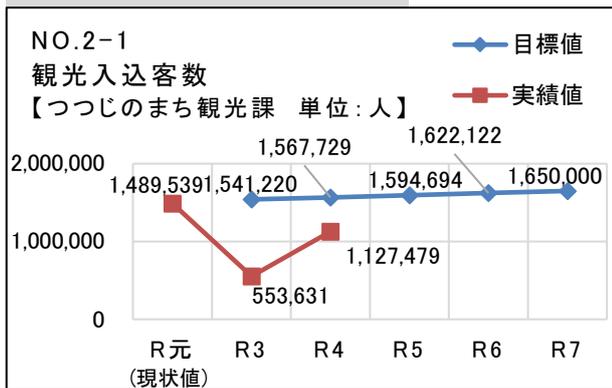
農業従事者の高齢化や後継者不足により遊休農地の増加が予想されるが、引き続き、農地利用の最適化の促進を図る。



成果

課題・方向性

分野：観光

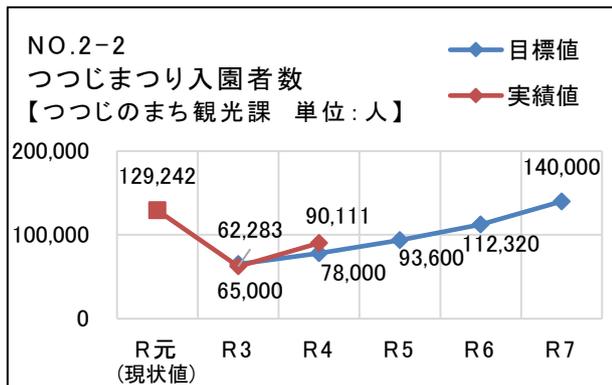


成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、各種イベントなどが中止となり、観光入込客数が減少した。

課題・方向性

新型コロナウイルス感染症の収束を見込み、観光入込客につながる各種イベントを企画し、開催する。

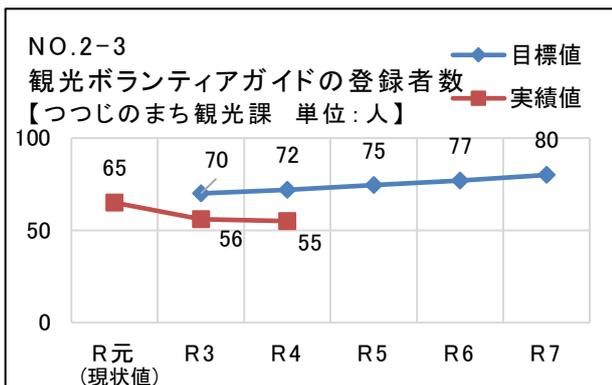


成果

増加傾向にあるものの、新型コロナウイルスの影響により、入園者数の伸び率はやや低い。

課題・方向性

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、入園料等による自主財源の確保及び地元経済の活性化に繋げる。



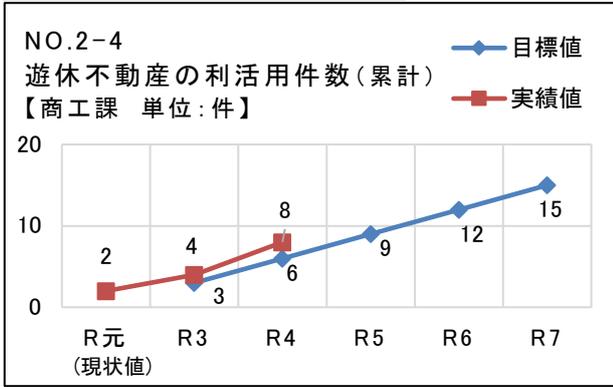
成果

新型コロナウイルス感染症の影響により、観光スポットを案内する機会が減り、登録者数も減ってしまった。

課題・方向性

観光客等からの要請により、観光ボランティアが活躍できるよう、ボランティアの会の育成・支援を行う。

分野：まちのにぎわい

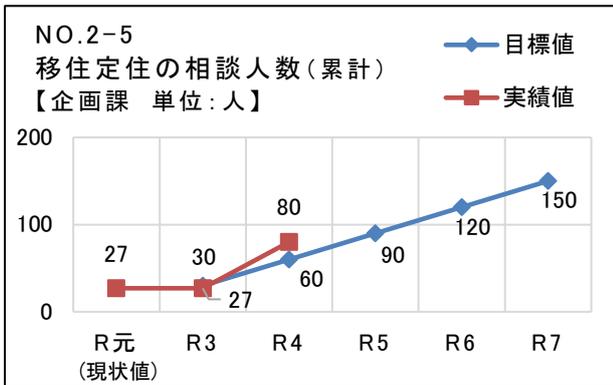


成果

遊休不動産を改装し店舗として活用したほか、イベント開催によって、利活用を行った。

課題・方向性

空き店舗等の遊休不動産を改装し、利活用される方を支援することで経済活動を維持していく。

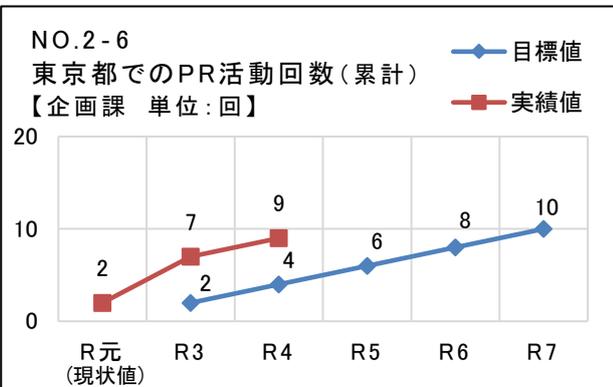


成果

- ・約3年ぶりに対面での移住相談会が開催されるなど、コロナ禍前の状況に戻つつある状況である。
- ・このような中、令和4年度の移住相談人数は53名となり、本市への移住に繋がっている例もある。

課題・方向性

- ・移住相談にあたっては、そもそも「館林市」を知らないかたも多く、本市の知名度を上げる必要がある。
- ・また、対面での移住相談会について、自治体によっては簡単なプレゼントを渡すなどの様子が見られ、本市はさらに創意工夫の余地があると感じられた。
- ・このようなことから、本市への移住・定住の促進のため、シティプロモーション等をさらに進めるとともに、移住相談会でのブースの工夫を行うなど、取組を強化していく。

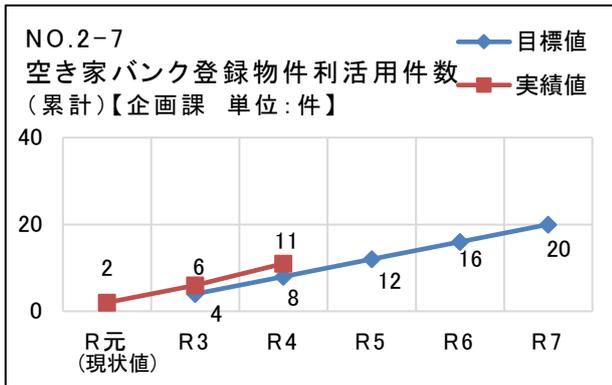


成果

- ・約3年ぶりに東京において対面での移住相談会が開催された。

課題・方向性

- ・対面でのイベント等は回数が増加し、機会を捉え参加を行ったものの、オンラインイベント等の参加が減ってしまったことから、今後については対面・オンライン問わず積極的にPRを行っていく。

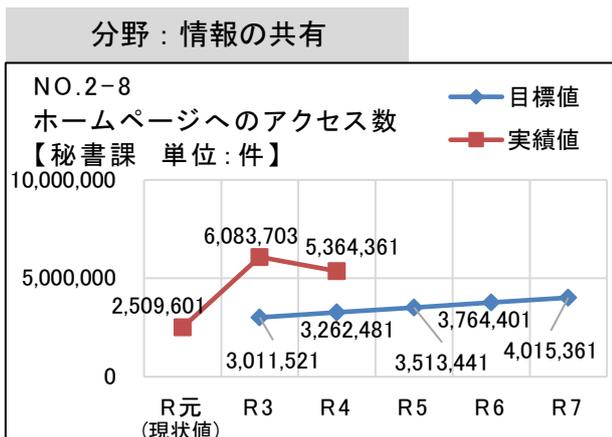


成果

令和4年度の利活用件数は5件であり、前年度実績と同水準を維持している。

課題・方向性

利活用推進のためには、まずは空き家バンクの登録物件を増やす必要があることから、利活用の希望がある所有者に対してバンクへの登録を促すとともに、市内の不動産会社に働きかけるなどして、登録物件を増やしていく。

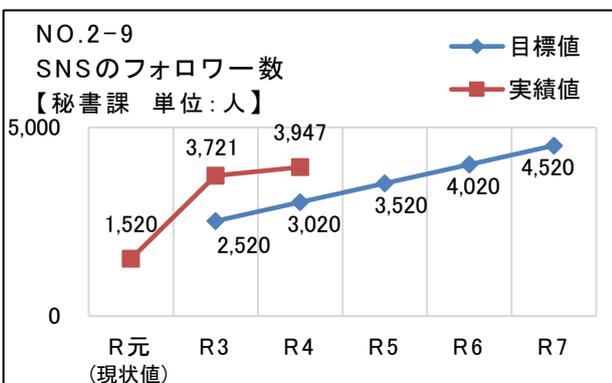


成果

- ・令和4年度のホームページへのアクセス数は、年度目標値(3,262,481件)を上回るとともに、令和7年度目標値にも達している。
- ・要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響により、情報を求めるかたからのアクセスがここ数年で大きく増え、それが継続したものと考えられる。
- ・なお、感染症の落ち着きに伴い、更新する情報が少なくなってきたため、前年度比では719,342件(11.8%)の減となった。

課題・方向性

時間に制約されることなく閲覧することができるホームページは、市民など利用者にとって利便性の向上に寄与する情報提供手段であることから、分かりやすいページ作りのほか、早く、正確な情報の提供に努めていく。

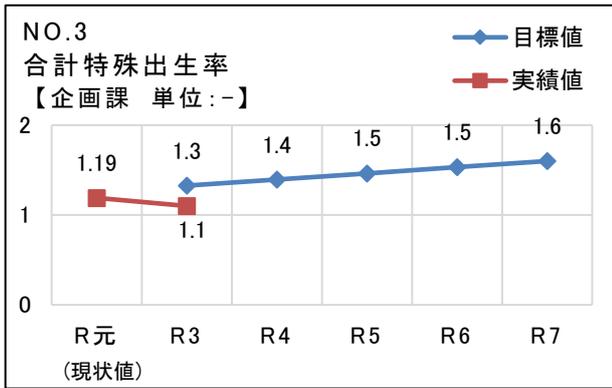


成果

- ・令和4年度のSNS(ツイッター)のフォロワー数は、年度目標値(3,020人)を上回った。
- ・要因としては、新型コロナウイルス感染症の影響などで、新しい情報をいち早く受け取りたいかたからの登録が進み、令和2年度に1,524人増、令和3年度に677人増と大幅に増えたためである。
- ・なお、令和4年度には226人の増となったが、これまでと比べると伸びが鈍化している。

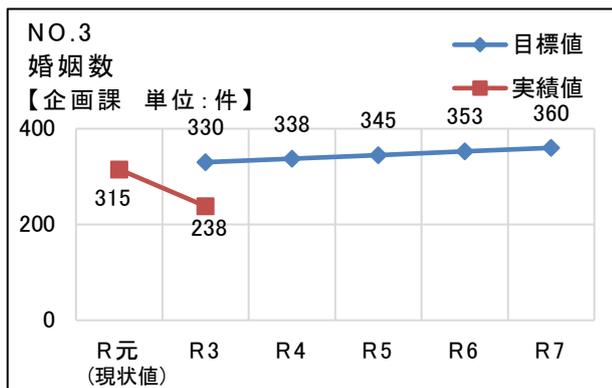
課題・方向性

- ・フォロワー数を増やすためには、有益な情報をタイムリーに発信していく必要がある。
- ・ツイッターには文字数制限があるため、市ホームページなどの媒体と連動させながら運用していく。



成果

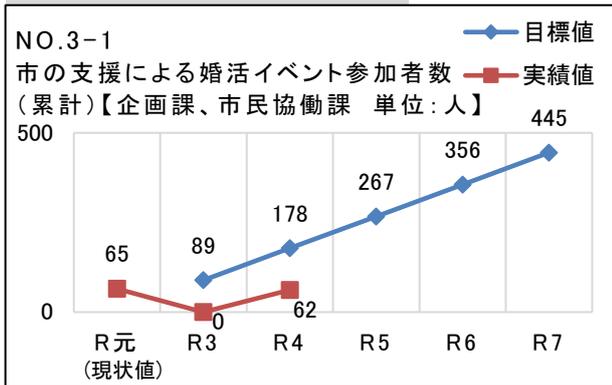
課題・方向性



成果

課題・方向性

分野：まちのにぎわい

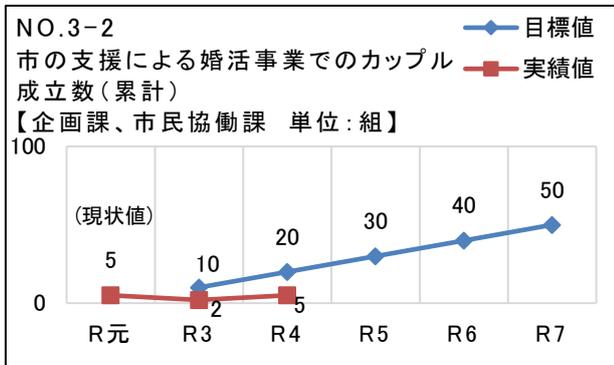


成果

市が支援した3回のイベントにおいて、62名の参加があった。

課題・方向性

- ・ 今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。
- ・ また、社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。
- ・ さらに「婚活支援事業補助金」についても積極的に周知し、民間によるイベント開催の増進を図る。



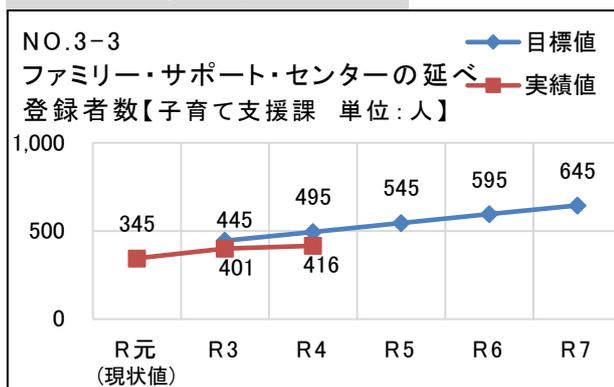
成果

市が支援したイベントにおいて、5組のマッチングが成立した。

課題・方向性

- ・ 今後は、対面のほか、オンラインでの婚活イベントや若い世代に向けた結婚に関するライフデザインの実施など、イベントに付加価値をつけて参加者数の増加を図る必要がある。
- ・ また、委託先である館林市社会福祉協議会や婚活応援支援員と連携し、コロナ禍の状況でもニーズにあった事業を展開することで相談登録者確保に繋げ、婚活支援を継続していく。

分野：子育て

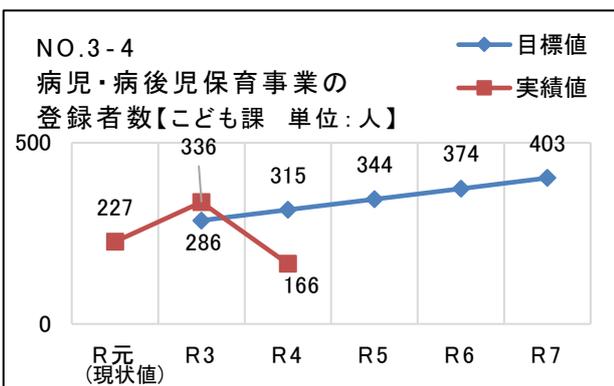


成果

新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、「おねがい会員（育児の援助を受けたい方）」の会員数が増加し、地域における子育て支援の活性化に繋がった。

課題・方向性

「まかせて会員（育児の援助を行いたい方）」の会員数が思うように伸びない状況であり、子育て支援に興味をもつ地域の人々の参加を促すため、事業をさらに周知していく。

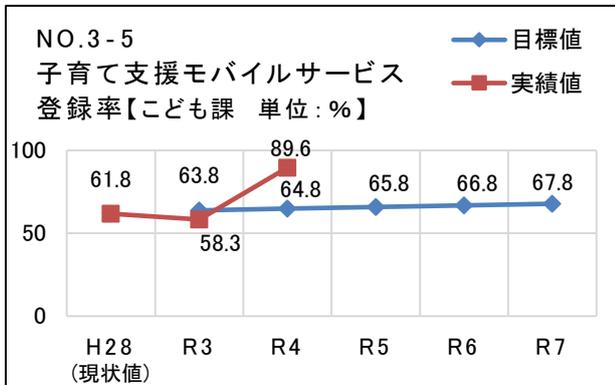


成果

利用制限の対象となる新型コロナウイルス感染症陽性者がみなし陽性者も含め爆発的に増加したことに加え、国の事業である”新型コロナウイルス感染症対応休業支援金・給付金制度”が浸透し、急病時に休暇を取りやすくなったことに伴い、「病児・病後児保育事業の登録者」も減少したと考えられる。

課題・方向性

引き続き、保育施設入園児等に事業の周知を働きかけ利用登録を促進し、病児・病後児保育を必要とする保護者の子育て支援を図る。

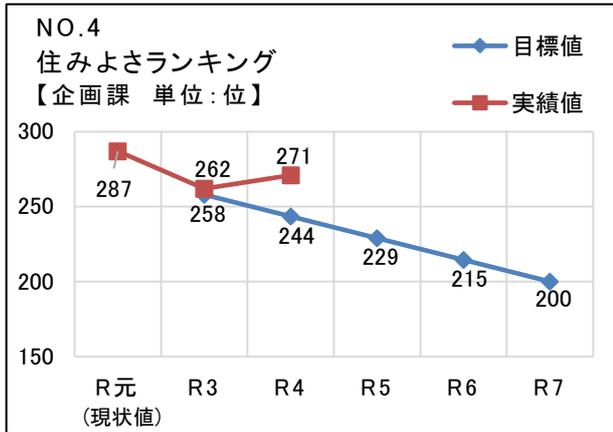


成果

新型コロナウイルス感染症の警戒度が下がり、面接時間を十分確保でき、モバイルサービスの説明を実施できたこと、アプリとしてリニューアルし、登録しやすくなったことで登録率が上昇した。

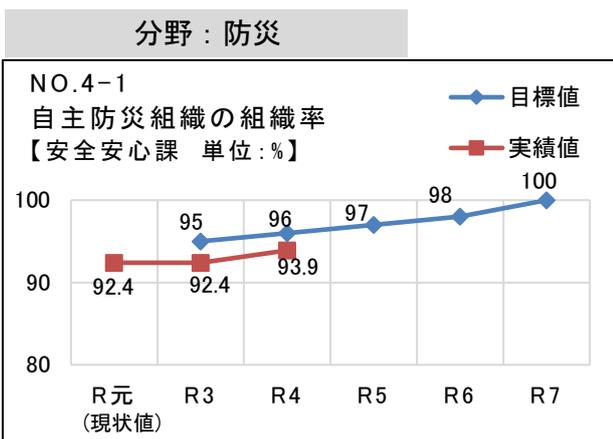
課題・方向性

- ・今後も、妊娠届出時、妊産婦・新生児訪問時に登録勧奨を行うことに加え、登録作業が難しい外国籍の方には職員が登録補助を行うことで、登録者数の増加に結び付けたい。
- ・さらに対象者が登録したくなるよう配信内容の定期的な見直しや更新を行い登録率の維持・向上を目指す。



成果

課題・方向性

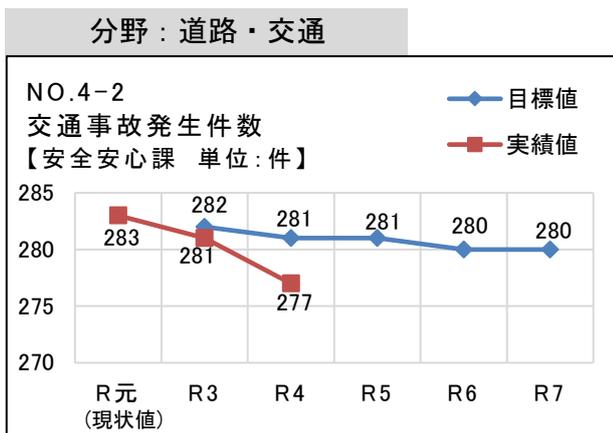


成果

自主防災組織が未設立の行政区に対し、図上訓練の実施支援を行い、自主防災組織の設立を支援した。

課題・方向性

各地区において自主的な防災活動が行われるよう、地区防災計画策定の支援を行うことなどにより、行政区による自主防災組織設置の動機づけをし、設置率の向上に努めていく。

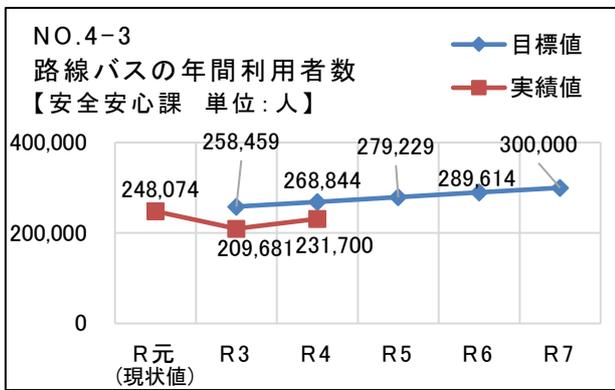


成果

交通事故防止のため、関係機関と連携し啓発活動を実施するとともに、地域要望等に基づき、交通安全施設の整備・維持に努めた。

課題・方向性

今後も引き続き関係機関と連携し啓発に取り組むとともに、交通安全施設整備の推進を図る。



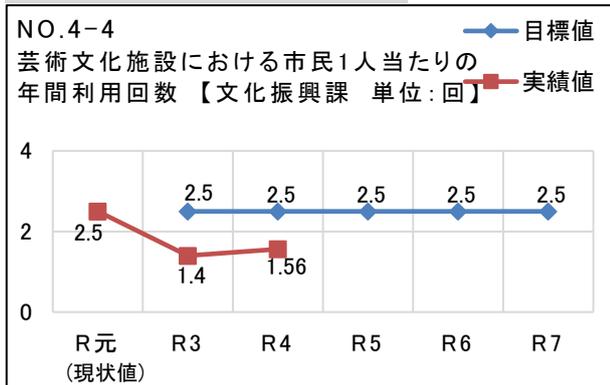
成果

- ・館林都市圏地域公共交通計画に基づく路線再編の成果として、「館林・邑楽・千代田線」を廃止し、「六郷西線」「通勤通学ノースライナー」の運行を開始した。
- ・利用促進事業としては、沿線高校への啓発チラシ配布をはじめ、乗り方教室の実施や、館林駅東西連絡通路内にデジタルサイネージの設置などを行った。
- ・ここ数年、新型コロナウイルス感染症の影響で利用者が減少していたが、令和4年度はコロナ前の9割以上に回復している。

課題・方向性

館林都市圏地域公共交通計画に基づく各種事業を推進することにより、暮らしに寄り添う交通ネットワークの構築に取り組み、利用者数の増加を目指す。

分野：文化

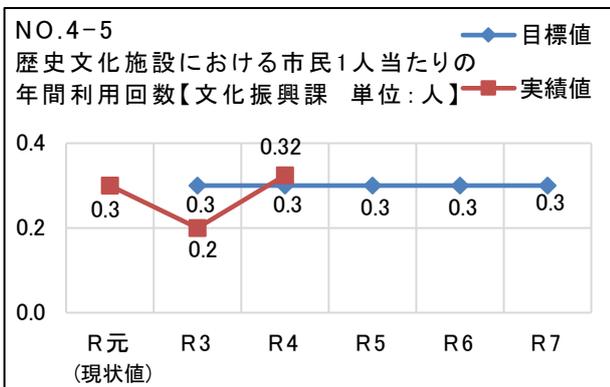


成果

文化会館及び芸術ホールでは、イベント開催の復調傾向や市内民間コンベンションホールの閉鎖などからホールや会議室利用者数が増加した。

課題・方向性

芸術文化活動を推進するよう、老朽化した施設の維持管理が課題であり、安全安心な施設の利用のため、施設の長寿命化を図っていく。



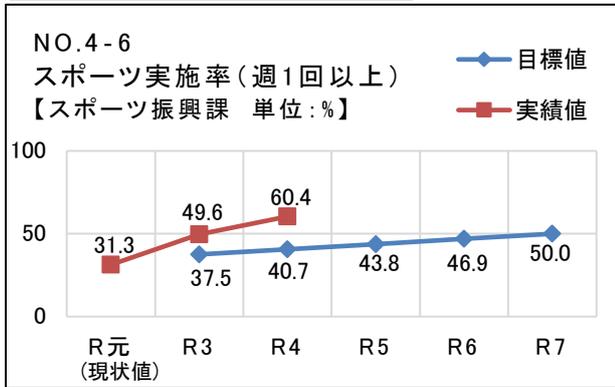
成果

館林市立資料館(第一・第二)、田山花袋記念文学館では燻蒸による休館、武鷹館では工事休館があったが、ソフト事業の充実により、全施設で前年比でプラスに転じた。

課題・方向性

歴史文化施設を拠点として、本市の歴史文化資源を広くPRし、市民だけでなく市外からの来訪者数を増加させて地域活性化を図っていく。

分野：スポーツ



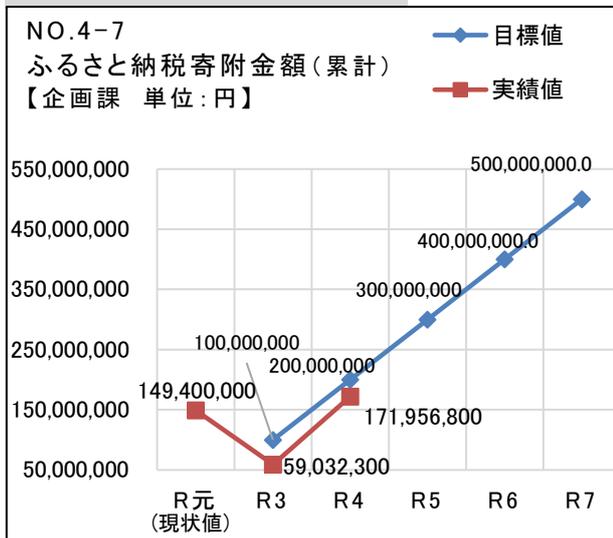
成果

- ・スポーツ実施率は、スポーツ事業参加者及び公民館利用者へのアンケートにより算出しており、過年度の実施率を含め健康志向の関心の高さや各種スポーツ事業への参加意識の向上が見られる。
- ・また、老朽化が進む各スポーツ施設の継続的な維持管理の実施によって、利用者の安全性を重視した環境整備が図られている。

課題・方向性

- ・市民の体力の保持増進や健康志向の高まり、また地域づくりやコミュニケーション形成など、それぞれの目的に応じ取り組んでおり、目標値に達した。
- ・今後は、市民ニーズを取り入れた各種スポーツ体験教室、家族や団体に気軽に楽しめるレクリエーション大会等を実施するほか、利便性を考慮した各スポーツ施設の改修等により、よりスポーツに取り組みやすい環境を整備し、実施率を向上させていく必要がある。

分野：行政活動



成果

さとふる、楽天といった大手ポータルサイトの追加により、寄附額・寄附件数ともに大幅増とすることができた。

課題・方向性

さらなるポータルサイトの追加、新たな返礼品の発掘を進めていく。